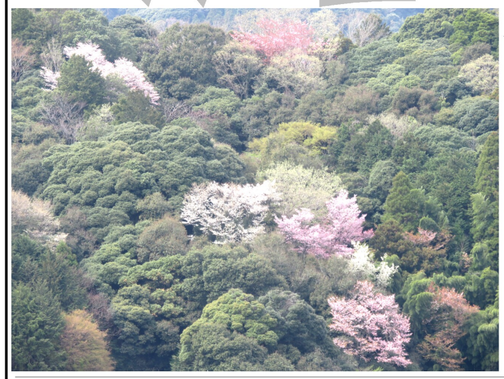
加茂里山通信創刊20周年第８０号

山笑い里山に花明かり

加茂里山通信
令和５年春号
発行　市原商工会議所
加茂里山通信編集部
編集長　征矢貴造



寒い冬でした。外の温度計がマイナス７度や８度という日もありました。積もるほどの雪はありませんでしたが、あまりの寒さに耐えきれなかった苗木もありました。それも2月後半から3月初めにかけて暖かい日が増えてきたとたん、スイッチが入ったかのような爆発的な芽吹きに始まり、日を追うごとに草は伸び花は開花し若葉は萌え出でて、毎日のように里山の景観は変化していきます。菜の花が花をつけてからどんどん大きくなっていく様や、あちこちに咲き誇る山桜の花の命がソメイヨシノに比べれば短いこと、山桜にも早めに咲くものもあればソメイヨシノが満開となってもまだツボミ状態のものもあることに気付きます。ふきのとうが沢山とれました。野蒜がいっぱい出て、フキも大きくなり、気が付かぬ間にワラビが伸びていて、タケノコも例年より早く顔を出しました。春が一挙に押し寄せて山菜も一挙に出現してきました。味覚でも里山の春を満喫できます。

ところで、例年多くの観光客が楽しみにしていた石神の菜の花が今年は壊滅的に咲いていません。ここ何年か徐々に咲く面積が減り、咲き具合も下降線をたどってきましたが、今年は最悪の状況になってしまいました。シカやキョンに食べられてしまったという人もいますが、圧倒的に芽出しが少なく、他に根本的な原因があるのではないかと、土壌調査の専門家に調べてもらったところ、何年もの連作障害もあり土が酸性化し、カビ菌が蔓延していて種をまいても芽が出てこないことがわかりました。そのことを石神菜の花会の人たちや関係者も理解して、来年に向けて土造りから始めて、溪谷駅に近いところの何面かにみんなでもう一度一面満開の菜の花を咲かせてみようとのプロジェクトが始まっています。

多くの人の地道な努力によってあの景観が保たれていたことを改めて思い知ります。

加茂の里山は今最も華やかで生命力にあふれた季節を迎えています。田に水が引かれ、畑が耕され、草刈り始まりました。人もまた活力のあふれる季節です。夕暮れ時になると、桜や菜の花がぼんやりと白みます。殊に満開の桜は夜でもほの明るく、昔の人が「花明かり」といった趣を呈して見事です。夜桜も里の地によく合います。

（征矢里山通信員）

今年も「養老渓谷の日」イベント開催！

春の養老渓谷、多くのお客様に訪れて頂きたい、との想いから制定した「養老渓谷の日」。２０１９年の制定から、今年で5回目を迎えましたイベント開催は4回目、市原市観光協会主催）。今年も、市原を元気に！養老渓谷を元気に！来場のお客様を楽しく笑顔に！との気持ちで実施いたしました。

10時15分、小湊鉄道が養老渓谷駅に到着するタイミングで、和太鼓の大きな音が響き渡りイベントがスタート。和太鼓「江粋連」のパフォーマンスで、手拍子や掛け声と共に、会場が一体となり盛り上がります。いちはら観光PR特使でもある、プロレスラーの大和ヒロシ選手は、ハイキングに必要な筋肉を鍛えるフィットネス教室を開催。女子プロレスラーの笹村あやめ選手は、ちびっこプロレス教室を実施。その他にも、牛久ベンチャーズによる演奏、県立姉崎高校ダンス部によるダンスパフォーマンス、よさこいの櫻」と千葉城太鼓の演舞、地球フェスタチームの稲作踊りと、盛りだくさんの内容でステージが進行しました。

また、今年は飲食ブースも地域の皆様に多大なご協力をいただきました。地元有志のみなさんによる、地元の五輪いわおポークをふんだんに使った焼きそばやとん汁、養老川漁協の鮎の塩焼き、里山ファームのジェラートやお弁当、いっぺあプリンなど、舌でもお客様に楽しんでいただけました。

イベントのトリを飾るのは、千葉の地域密着プロレス団体「２ＡＷ」による養老渓谷駅前プロレス。駅前でのプロレスは、2年連続での開催となりました。今回は不織布マスクの着用を条件として選手への声援がＯＫとなっており、前回以上に盛り上がり、大和選手の「エイエイオー！」の掛け声で、今年の「養老渓谷の日」のイベントは幕を閉じました。

今年も「地元を盛り上げたい！」との想いから、多くの企業に協賛をいただきました。そして、沢山の方々にお手伝いをいただき、お声がけをいただき、皆様の温かさに本当に感謝しております。この場を借りまして御礼申し上げます。

まだまだ反省点や課題がたくさんありますが、今後も継続して開催していき、観光のお客様だけでなく、地域の皆様にも参加し楽しんでいただけるイベントへと成長させていき、4月1週目の週末は養老渓谷に行こう！と思っていただけるよう精進してまいります。

（是永里山通信員）

「二十歳の集い」おめでとう！

年明けの令和5年1月8日（日）に加茂公民館で、「二十歳の集い」として成人式が挙行されました。寒さが厳しい冬でしたが、この日ばかりは穏やかな日差しの好天となり、二十歳という、人生の節目を迎えた皆さんを祝福するようなお天気でした。

民法の改正で成人年齢が１８歳となり、これまでの「成人式」から「二十歳の集い」と呼び方も変わりましたが、やはり人生の門出を祝う式典として、厳粛な中にも祝福の暖かい気持ちが込められた、素晴らしい式典となりました。

主催者の加茂地区「二十歳の集い」実行委員会（杉田政行実行委員長）の祝辞から始まり、市長メッセージ、来賓祝辞と続き、新成人代表からの実行委員会はじめ携わる皆様への配慮にあふれた運営に感謝するという謝辞で式典が締められ、加茂の新成人の未来の活躍を願う地域の想いが凝縮された式典と感じました。

会場に参加された新成人は　男性１０名、女性１０名の２０人ではありましたが、彼ら一人一人が主役でした。新成人皆様のこれからの活躍と幸多い人生を願わずにいられません。

頑張れ、加茂の若者たち。

（大曽根T里山通信員）

加茂学園は今

立志式

1月26日（木）に、立志式を行いました。7年生は、一人一人登壇して、自分の将来に向けた決意を述べました。家族や周囲の人たちへの感謝とともに、将来の夢や希望、これからの抱負を堂々とした態度で語ることができました。

「10年間ありがとう」の会・特別授業

1月28日（土）に授業参観と特別授業を行いました。4年生は参観授業の中で「『10年間ありがとう』の会」として、歌と発表で家族や周囲の人への感謝を伝えました。

特別授業は講師として東北福祉大学学長で宝林寺住職の千葉公慈様をお招きし、「人はどう生きるべきか」がかがやく未来のために」と題しての講話をお聞きしました。加茂中の卒業生でもある千葉先生から、仏教の教えを分かりやすく説いてもらった生徒たちは、生きる上で大切にしたいことについて考えを深めていました。

9年生を送る会

3月2日（木）に「9年生を送る会」を行いました。生徒たちは多くの保護者の皆様の見守る中、各ブロック・学年ごとに練習・準備を重ねてきた思いのこもった発表を披露しました。体育館中があたたかい雰囲気に包まれました。

卒業証書授与式・修了式

3月10日（金）に卒業証書授与式を行いました。9年間の学校生活を送った愛着ある母校を巣立つ卒業生を全校で祝福し、これからの健康と活躍を祈りました。また3月24日（金）には修了式が行われ、今年度の全課程が修了しました。来年度、加茂っ子のさらなる活躍が楽しみです。

（堂山里山通信員）

上古敷谷里山

里山風景を維持する事。その季節ごとの状況を確認し、作業を行う。草刈り、水路の修繕作業等々。その時々にメンバーで話合って、作業を進める。月日が過ぎても、やることは一緒のようになっているが、里山の風景が少しづつ変わっている。樹々の成長が早くなってるのかもしれない。人が入らない事で、田畑が非農地化して、山林となっていく。荒野とならないように作業し、季節ごとの風景、産物を楽しむことが里山なのかもしれない。

（矢代里山通信員）

宝船プレゼント引き渡し式

2月19日（日）に新年号で募集した宝船プレゼントの引き渡し式が行なわれました。当日は風が強く商工会議所加茂支部の中での引き渡しでした。3年ぶりの開催でした。当選者の皆様おめでとうございます。

編集後記

・野球のＷＢＣに魅せられた人は多かったと思います。ことに準決勝、決勝の正にドラマのような展開は興奮冷めやらぬものでした。大谷選手の感情むき出しのプレーや、チェコの監督や選手たちの相手をリスペクトする姿勢やメキシコやアメリカの監督の言葉にも感銘を受けました。ただ、この同じ時間帯に、同じ地球上で、ウクライナでは野球を見るどころではなく、国を守るために必死で戦っている人々がいることも厳然たる事実です。

・湖畔のマルシェに関わる白石君やたなば市を主催する三和さんは新しく加茂を拠点にする若い人たちです。発想も視点も新鮮で、何よりもネットワークが豊富でいろいろな人とのつながりがあります。それを生かしてのこれからの活躍が楽しみです。

・令和４年度の町会長として1年を過ごしました。３年続いてコロナの影響で市民祭りの盆踊りや神社の神輿の渡御などの行事が行われなかったので、それまでの町会長さんに比べれば比較的楽だったかもしれません。今年度はそれらの開催とともに、国府まつりや芸術祭の開催も予定されています。コロナ以前の形に少しずつ戻り始めています。しかしコロナはまだ終焉したわけではないので、それにも注意を払いながらの生活は続くでしょう。

・今年は千葉県の１５０周年、市原市の６０周年、国府まつりの１０回目と記念の多い年ですが、この里山通信も創刊２０周年第８０号を発行することができました。読者の皆様に支えられての２０年です。

（征矢里山通信員）

次回は７月２０日発行予定です。

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。
メールでも受け付けます。
記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。
市原商工会議所
０４３６（２２）４３０５　担当　霜崎
Eメール　1sap@i-cci.or.jp

房総・養老渓谷の地酒お土産は
養老渓谷駅前
角屋商店
養老渓谷観光協会窓口
市原市朝生原１８１
TEL０４３６－９６－１１０８
FAX０４３６－９６－００５２

愛車のある幸せな暮らし応援します！
安全・安心
有限会社　全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神２２７
TEL０４３６－９６－０４８２
FAX０４３６－９６－１２９３

皆様と共に歩む観光

さわやかな季節にバス釣りしよう
高滝湖観光企業組合
TEL　0436-98-1277

そして20年

季節ごとに発行を続け、20年が経ちました。この加茂里山通信の発行は、広告を出してくださっている方々、市原商工会議所、読者の皆さんに支えられて今日に至りました。深く感謝申し上げます。

同じように市原市南部で毎月発行されている情報誌「伝心柱」はもうすでに20年を超えています。取材・編集にかかわっている深山さん、原地さんには敬意を表します。何よりも継続していくにはお金も必要ですが強い意思が必要です。目的をもって情報を伝えるという意思、揺るがない基本的な姿勢。この伝心柱の二人とは以前からの友人です。時には情報のやりとり、そしてお互いの写真の提供なども行って、補い合っていることもあります。よきライバルであり、お互いに刺激を受けて今日に至っていると私は思います。

この20年で何が変わったのか。この加茂地区に限って言えばどんな変化があったのか。20年間春夏秋冬にその時の加茂地区を伝えてきましたので、里山通信は記録誌としての役目もあったのかなと思います。花火大会の変遷、協賛金をめぐる変遷、少子高齢化の変遷、芸術祭の変遷、そして新しく加茂地区に入ってきて活躍している人たちの紹介など。伝えたいこと、ぜひ知ってもらいたいこと、あるいは地域のささやかな話題や里山の食のこと、そして四季折々の里山の変わらぬ美しさも載せるように努めてきました。

加茂地区では少子高齢化が確実に進み、これから先の大きな問題です。でもこれは日本全体の問題でもあります。人口が減っていくのは確実で生産能力も購買力も減りますから、産業構造そのものが変わり、社会全体の構造も変わるはずです。加茂地区で言えば田んぼをやる人間が次第にいなくなり、町会の次の担い手がいなくなって町会の維持そのものが厳しいという状況が生まれてくると思います。若い世代に残ってもらい入ってきてもらうことが必須になりますが、若い世代そのものの数が少ないのですから、こればほかの地域との争奪になります。魅力ある地で受け入れる体制のあるところに人は移ります。嘆き手をこまねいているばかりでは何も変わらないどころかもっと悪化していきます。。少し先を見ての対策が必至です。

加茂里山通信ではそうした加茂地区の状況も随時伝えていきます。読者の皆様からの変わらぬご支援、ご鞭撻をこれからもよろしくお願い申し上げます。

（征矢里山通信員）

今　高滝がおもしろい

毎週日曜日　6時～8時　あんでんかんでん市　高滝駅前

毎月第2土曜日　12時～16時　たなぼた市　高滝湖コーポレートオフィス

毎月第3日曜日　9時～13時　お宝市　高滝神社境内

毎月第4土曜日　10時～15時　湖畔のマルシェ　市原湖畔美術館

4月29・30日　みなみ市原里山ジャンボリー　高滝湖野外音楽堂・公園

4月1日～6月30日　FUNロゲイニング　in　高滝湖

「たなぼた市」開催

こんにちは！energy closet（エナクロ）代表サユリです。

エナクロのアトリエは市原市に住んでいるたっくさんの人の力を借りて出来上がりました。物が散乱して、雨漏りもあった古民家をみんなで掃除をして補修をして、田舎で暮らしたことのない私にいろんな知恵を教えてくれたり、食べ物をお裾分けしてくれたり。

あっという間に市原の暮らしに馴染ませてもらったものにたくさん触れさせてもらいました。そして気づいたら、いらなくなったもの、捨てられそうなものがあるとわたしに届けてくれるひとたちがいて、その中でまだ着れるお洋服はCLOSETtoCLOSETにも並べさせてもらっています。

市原市にアトリエを持ったわたしが一番感じていることは、この町には素敵な人と素敵な物がもうたくさんあって、それが眠っているということ。

energy closet にできることは、市原のみんなも気付いていない良いもの良いことを見つけて、引き継ぐことだと思っています。なので、だれでも気軽に出品できる、目的がなくてもふらっと立ち寄れる、フリーマーケット、を主催することにしました。もちろん市外の古い物好きなみんなも、市原が気になるみんなも大歓迎です。

みんなの力を借りながら少しずつつくっていくマーケットにしたいと思っています。是非遊びに、出店しにきてくれたら嬉しいです。

みんなにも棚から牡丹餅な発見がありますように。

代表　三和沙友里

「湖畔のマルシェ」スタート

3月のテーマは「花もたんごも」。「花よりだんご」ではなく「どちらも」楽しんでしまおう！というテーマです。当日は直前の天気予報に左右されながらあいにくの天気となってしまいました。しかしながら、美術館様や出店者さまメンバーの協力で、急遽特設ホールなどを活用し実施にこぎつけました。

雨天の中の搬入、予定外のセッティング、直前の出店者様への連絡調整など。初回からハプニング、トラブルしかないイベントとなりました。そんな中でも各地域からの出店の方々、ご来場の方々も新たな出会いを楽しんでいただけたようで売り切れなども続出しておりました。

まだまだ千葉県中にいる素敵な方たち。そんな各地で起き始めている風を集めて伝えていきたい。そんな思いで湖畔のマルシェ運営ユニットを「旅する千の風のパレード」と名乗ることにしました。

「湖畔のマルシェ」次は第4土曜日である4月22日です。テーマは「COFFEE (bitter)&SWEETS」です。新生活や新たな出会い、そんな苦いも甘いもある日々のくらしをテーマにしました。千葉各地からコーヒー屋さんが10店舗以上、スイーツだけでなくフードももちろん来ます。長南町のシンガーソングライター「引田香織さん」によるライブ、けん玉ミーティングもあり盛りだくさん。ぜひお越しください！！

今回がようやくスタートです、まだまだ迷惑お手数おかけいたしますが、引き続きよろしくお願いいたします。

（白石伸行里山通信員）

「みなみ市原里山ジャンボリー」開催

市原市加茂地区の小湊緑沿線はまさしく古き良き時代にリアルトリップできる環境です。都心部の雑踏や喧噪に疲れた方々に、一番近い鄙びた田舎へ、帰省する故郷のように訪れていただきたいと思います。その反面、少子高齢化はもちろん、過疎化や田畑の獣害が深刻な問題となっています。そんな加茂地区の新住民誘致のきっかけにしたいと考えて「みなみ市原里山ジャンボリー」を開催してきました。今年で5回目になります。主催側も参加側も混然一体となり「古き良き時代の村祭り」のようなイベントを毎年開催出来ればと考えています。

●音楽堂：市内をはじめ近隣地域で活動されている音楽家による演奏。

●公　開：○市原市在住のチェーンソーカービング世界チャンピオン経験者市原観光大使でもある「栗田宏武」さんによる実演とWS。および作品展示即売。

○市原観光PR特使「大和ヒロシ」プロレスラーの初参加となります。

○市原および周辺のクラフト作家さんによる展示即売会やWSも本年は多数参加していただける事になりました。

音楽だけでなくお子様から年配の方々まで一日中ピクニック気分で過ごせますので、是非ともレジャーシート持参（必須です）で、お越しください。

みなみ市原里山ジャンボリー実行委員会

（cafeうさぎや）　加瀬勝三・美香

加茂里山通信創刊20周年 第80号発刊に寄せて

加茂里山通信」第80号の発刊にあたり、心よりお祝いを申し上げます。

市原商工会議所加茂青年部の機関誌として、平成15年7月に第1号が創刊されて以来、この度、記念すべき第80号の発刊を迎えられましたこと、また20周年を迎えられましたことは、これまで征矢編集長をはじめとした通信員の皆様が毎号精魂を傾けて編集にあたられてきた永年にわたるご努力の賜と、心より敬意を表します。

市原商工会議所といたしましても、昨年に創立50周年を迎えましたが、今日の発展は幾多の困難を乗り越えられてきた地域の商工業者、先人たちの血と汗の結晶によるものであります。

加茂里山通信におかれましては、単に加茂地区の情報誌という面だけではなく、その時代々々におけるタイムリーな情報から地域に伝わる文化、人々の想いなど、幅広い分野を通じて多くの方々が「通信員」という名の「語り部」として編集されており、郷土の文化をしっかり見つめ、郷土を愛する思いや心を伝承していくという、極めて大きな役割を果たされております。

「温故知新」とは申しますが、連綿と途切れることのない地域の歴史や文化をしっかり伝えていくことは、極めて重要なことでありながら、なかなか難しいものでもあります。発足当初から変わらぬ熱意をもってそれらに取組まれておられる皆様のご努力と真摯な姿勢に対しまして、改めて敬意を表しますとともに、感謝を申し上げる次第であります。

大変ご苦労の多い執筆、編集作業とは存じますが、「加茂里山通信」がますます発展されますよう心からご祈念申し上げますとともに、皆様の献身的なご努力に重ねてお礼を申し上げ、記念すべき第80号の発刊に寄せての、お祝いの言葉とさせていただきます。

市原商工会議所　会頭　榊原義久

こっもど紀行 新年度予算は過去最大！

市原市の平成5年度の予算が確定しました。市は今年度、市制施行60周年を迎えます。人間でいえば「還暦」です。節目の年に過去最大の予算が組まれました。コロナで傷んだ地域の再生と更なる活性化に向けた施策が詰まっています。

主なものを、紹介します。

■サンプラザ市原を改修して、産業創造拠点にします。市内の起業・創業を促して、空き店舗の活用や雇用につなげようという狙いがあります。

■γ0Uホールを子育て支援の拠点施設に改修して「いちはら子ども未来館」に進化させます。これで、少しでも人口減少に歯止めをかけようとしています。何しろ、20年ほど前には市原の子供の出生数は2千人を超えていましたが、令和4年には1500人を下回ってしまいました。コロナで結婚数が減ったこともあるでしょうが、このまま少子化が進めば　地域の活力が失われるのは明らかです。

■五井駅周辺の土地区画整理事業が組合方式でスタートします。JR五井駅東口の活性化で市内に元気を与えようと考えています。

■臨海部企業と連携して、小・中・高校生にキャリア教育を始めます。コンビナートでも地元採用をしたいのですが、なかなか雇用に結びつかないのが現実です。市原の生徒たちに「ものづくり」の現場を実際に見てもらおうという試みです。

■姉崎袖ケ浦　市原鶴舞インターチェンジ周辺を対象に企業立地調査が始まります。

雇用につながるような企業誘致が実現すればうれしい事です。

加茂地区や南市原地域に特に関係が深いものをあげます。

■中山間地の農地の荒廃を止め、農家の活性化を目指して、「モデル事業」の募集を実施します。高収益な農業への転換を目指しての試みになります。

■地域資源ともいえるゴルフにも、「ゴルフのまちいちはら」として、ゴルフ場とプロゴルフ会と連携して、競技人口の普及促進とジュニアの育成に力を入れることになります。

■アート×ミックスは千葉県の150周年事業と連携して、市原、木更津、袖ヶ浦、君津、富津、の5市の共同開催となりました。おなじみの北川フラム氏と音楽プロデューサーの小林武史さんが組んでの大きな芸術祭に進化します。

■チバニアンは　新国立競技場の設計で有名な隈研吾さん設計によるガイダンス施設の設計から着工へ動き始めます。

■いちはら移住・定住ビジョンが策定されます。大局的に移住・定住に取り組むための計画づくりになります。

■デマンド型集合タクシーが加茂地区を走ります。高齢化に伴う交通不便解消対策です。

■カーボンニュートラルに向けて工場敷地外緑地制度が緩和されました。内内の森林機能強化が盛り込まれています。

市全体の活性化を狙って、

■市政60周年の記念事業の一つとして「エンジン01」という事業が計画されています。これは「いちはら学の普及」を目指した事業で、マスコミで著名な方々が来訪して市原市を盛り上げていただくことになっています。

他には学校運営に地域が積極的にかかわる仕組みづくりや、これまで中学生までだった医療費の無償化が高校生まで拡大されるなど、少子化に歯止めをかけるための施策が盛り込まれています。

（大曽根T里山通信員）

里山のご馳走2023春

『おばあちゃんの味・キャラブキ』

自生する野フキをしょうゆ、酒、みりんで煮込み、佃煮風にしたものです。

野フキは葉を落とし、長いままたっぷりの水でこすり洗いをします。4～5センチに切り再び洗います。たっぷりの湯を沸かしフキを1～5分位茹でます。茹でたフキをザルに上げて水分を切ります。鍋にふきと調味料を入れて2時間位煮ます。翌日、弱火で30分位煮ます。翌々日、汁がなくなるまでもう1回煮ます。（フキ5キロ・醤油カップ3・酒カップ2・みりんカップ2・唐辛子2本）各家庭によって味が違います。早い時期のあっさりと煮たものから遅い時期のしっかりした味、黒飴を入れて仕上げたお茶請け用もあります。

『夏みかんのママレード』

夏みかんのママレード。洗ってから4等分して、皮と身に分ける。皮を15分くらいゆでる。水にさらしてから千切りにする。もう一度火にかけ湯でこぼす。（2回くらい）身のほうは薄皮をむく。皮を味見して苦くなければ水を切り、鍋に戻す。身・砂糖を入れて火にかける。（砂糖の量はお好みで）とろみがつくまで煮詰める。

4月になるとコゴミやワラビが出始めます。コゴミはさっと茹でて味噌マヨネーズをかける。ワラビは重曹を入れ、熱湯を掛けて一晩おいてあく抜きをする。さっとゆでて、おろししょうがとめんつゆに漬け込んでおひたし、タケノコと味噌汁に入れてもおいしいです。天ぷらにしておいしいものは、フキノトウに始まって、コゴミ、セリ、クレソン、ウドの葉っぱ、タケノコ、ヨモギ、アカシアの花・・・いろいろあります。山菜料理を満喫してください。

（大曽根R里山通信員）

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して
杉田建材株式会社
本　　社　市原市万田野 26　TEL 0436(96)1311
市原支店　市原市惣社1－1－22　TEL 0436(24)0511
南総支店　市原市牛久450－1　TEL 0436(50)0111
URL　http://www.sugita-group.com/

安心・解体工事の クドウ商店　相談・見積り無料！

空き家・倉庫・ブロック塀
樹木伐採・残置物の撤去
お気軽にお電話ください！
TEL 0436-98-3903
市原市五井中央東1-8-4　(株)滝心県知事（登-2）1967号